

# CLUB HARLEY



カスタムな気分はジェット?  
or フルフェイス!?

毎月14日発売  
クラブ・ハーレー

定価 980yen

2012年9月号(毎月14日発売)  
8月11日発売  
第12巻第9号通巻135号

9 2012  
September  
Vol.146

Ride the HARLEY-DAVIDSON.



気の利くパーツから  
新たなテクノロジーまで

# ここまでやれるぞ ツインカム!

TWINCAM CUSTOMSTYLE 2012



ブレないフロントで高速走行も余裕。  
 高速での走行が多いため、スピードを出してもフロントがブレないことが重要。そこでネックの角度の調整に時間をかけて最高の状態に。手を放しても大丈夫なほどに安定している



リアはボテっとなりすぎないようにスリムに整形。  
 ツアラーながらリアをスッキリまとめるため、サドルバッグは細身のものを製作した



ノーマルタンクにカバーをつけ  
 ストレッチ風に演出。  
 タンクは加工せず、アレンネスのカバーを装着してストレッチタンクのようなシルエットに



ペイントのモチーフは映画の  
 キャラクター。

カラーを決める際、オーナーがふと見た壁にかかっていた『スターウォーズ』のポスター。そこに描かれていたダース・モールがペイントのモチーフとなった



ナビにはダース・モールのフィギュアが取り付けられている。ペイントと統一感があるからか、意外にも落け込んでいる

# 軽快な走りを可能にした “スポーツバガー”。

流行のバガーとは一線を画する、  
 スポーティな走りができることに重きを置き  
 必要なパーツだけで構成したハイスピードマシン。  
 ツアラーカスタムの新しい形がこれだ！

text/T.Numao 沼尾哲平 photo/D.Mochiki 持木大助



## パワーを引き出すことが 第一条件。

「クラッチを繋いだ瞬間ホイールスピンするほどのパワーを出したい」  
 これがハヤブサやV・MAXでドラッグレースをしていたというオーナーが提示した最低条件だった。ペーシング車はCVO、スクリーミンイーグルの110キュービックスインチェエンジンを積んで、パワーに関しては申し分なし。しかし、納車後ノーマルで乗ったがいまいち物足りないと感じ、より上を目指したくなったそう。

いくつチョッパ的な考え方のもとに進行していった。  
 とはいえ、バイクは見た目も重要。そこで見た目と機能を兼ね備えたパーツがチョイスされた。かくしてできあがったカスタムは、見た目のインパクトと走行性を兼ね備えている。このスタイルをあえてジャパンドで表現するのなら「スポーツバガー」となるだろう。  
 「ロングフォークでネックを寝かしているけれど、セッティングをしっかりとってくれているので、スピードを出してもよじれる感じがありません。スーパーチャージャーのおかげか低速トルクも感じられてゆったりした走行でも、一気に加速するような場面もどんなシチュエーションでも楽しい。パワーも十分に感じられますね」と、オーナーも仕上がりに満足している。

# HARLEY Darth Thunder

ダースサンダー

CUSTOM SHOP

TRIJYA

トライジャ

取材協力/トライジャ TEL072-970-3110 www.triija.com

代表の岡本さんがプロデュースする独自のスタイルが人気のショップ。ツインカムをはじめとした高年式モデルを得意とし、純正パーツを加工するようなカスタムからほとんどのパーツをワンオフ製作するようなフルカスタムまで幅広く手掛けている



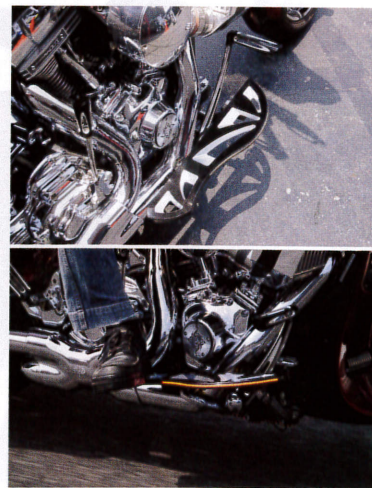
トライジャ代表  
 岡本佳之さん

主にカスタムプロデュースを行う。オーナーの希望に合わせたデザインを製作し、熟練のメカニックとともに作品を作り上げていく

ココが新鮮。

スーパーチャージャーが  
 高出力を実現させる。

プライマリーの回転を利用してファンを回し、強制的に吸気。圧縮された空気をエンジンに流し込むスーパーチャージャーを装備。ツインカム110の性能をより引き出し、スムーズでパワフルな加速が楽しめるようになっている



ウイinker埋め込み式のステップが斬新。

長さのあるステップボードは、トライジャオリジナルパーツブランド「刻美」のモノ。スタイリッシュなコントラストカットのデザインが目玉。サイドにはLEDが埋め込まれ、フロント側のウイinkerとして機能している



1800ccのストックモーターを最大限に生かす。

CVOに標準搭載されているツインカム110エンジンはストックの状態だが、サンダーマックスとスーパーチャージャーにより性能を高め、ハイパワーモーターに生まれ変わっている

# HARLEY-DAVIDSON 2010 FXCWC



快適なライディングポジションとデザイン性を両立すべく、「大章内張」でソロシートをオリジナルで製作した

オープンプライマリーには、プリモリベラ製ブルートフォーの3インチベルトを採用。サイドカバーをパウダーコートした

240ミリ幅の太いタイヤがロッカーCの魅力。ハードランド製フェンダーを加工し、迫力あるリアビューを演出している

倒立フォークをブラックにペイント。PM製ビッドホイールやケンス製ヘッドライトがアクセントになっている

## 純正オプションと 社外パーツの MIXスタイル。

RSB製ヴィンテージハンドルと低いタンク位置でハイテクチョッパーのフォルムを形成している

### SHOP ハーレーダビッドソン シティ/川越店

ハイテックなスタイリングが特徴の2010モデルのロッカーC。リブの入ったオイルタンク以外ノーマルの姿を留めていないが、実はボルトオンパーツのみでスタイリングされている。純正パーツと社外パーツを組み合わせ、ストックの走行性能を保ちつつも印象をガラリと変更。タンクにはスポーツスター用の小型のフューエルポンプを流用し、マウント位置を調節している。

問 / TEL049-249-2280 www.hd-city.com



ビルダー  
秀島憲一さん

「社外パーツを取り入れながらも、ノーマルの高級感を崩さないスタイリングを心がけています。テストも繰り返しておこなって安全性を確保しています」



XL用フューエルポンプを加工して取り付けけた社外ストレッタタンク。マットなヘビ柄に金箔のピンスト入りフレームスは、TMガレージによるペイント

# HARLEY 2009 FLSTSB



エンジンをブラック塗装。ジャパンドラッグ製エアクリナーカバーとTRIJYA製ブッシュロッドカバーでドレスアップ

Ricks製3次元ドライブ、ホイールとスプロケットを使用して、リアタイヤに300ミリ幅のワイドタイプを装着した

熱対策にW&W製オイルクーラーに純正オイルクーラーのサーモスタッドを併用。フロントフェンダーはワンオフ製作した

ロボットハンドルの中に配線を通してスッキリさせた。メーターダッシュにはDAKOTA製デジタルメーターを装着

## ヴィンテージ感を プラスした大胆な ホットロッドだ！

プライマリーケースをポリッシュからブラックに変更。外装はRODS DESIGNによるペイントだ

### SHOP ハーレーダビッドソン 幕張

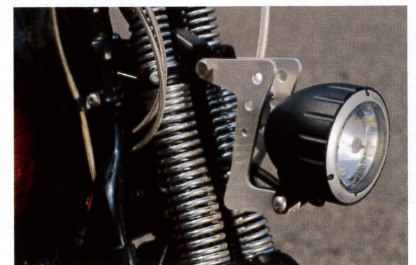
ベースモデルのクロスボーンズに標準装備されたスプリングフォークを生かし、ホットロッドなボバーに大胆にモディファイ。派手なルックスでありながらも、フレームなどの基本構成はオリジナルのまま乗りやすさをキープしている。「見た目は思いきりカスタマイズされていても、快適な乗り心地や高い操縦性を目指しました」と嶋田さん。狙い通りのマシンが完成した。

問 / TEL043-203-5580 www.hd-makuhari.com



ビルダー  
嶋田裕介さん

「カスタムによって起こりうるネガティブな要素を乗り越えるため、オーナーとの信頼関係は大切。法に適合してること、走行性能を保つことは絶対条件です」



純正スプリングの内部を分解して油圧ダンパーに変更し、W&W製スプリングに換装。ヘッドライトのステーはワンオフで製作した